

シルバー通信

役員就任挨拶

シニアボランティアの活性化が必要！



新しい役員体制でスタートし、早5ヶ月になります。
4月11日に公表された橋下知事のPT試案が、大きく我々の活動に影を落としております。4月20日付けで提出した提言書に應える形で、本年度のSA講座の継続が決定されました。

しっかりと現役生(21期生)の受け皿づくりを行って、大阪府SA連協の存在価値を示したいと思えます。各委員会のメンバーも決まり、活発に活動がスタートできております。各地区SAのボランティア活動の活性化に結びつく、情報提供と交流活動を構築してまいります。

大阪府が受講者説明会でプレゼンされた内容

「地域社会で高齢者の課題解決は、シニアパワーが支えていく事が重要である。それを達成する為にアドボカシー(NPO・ボランティアの新しい連携のかたち)が必要である。元気高齢者にボランティアの輪を広げる仕組みづくりが大事」

私はこの考え方に同感です。これを実践する為に大阪府は、広域行政としてこの支援体制が必要である。

⇒ 「SA講座の推進」、「施設の提供」、「情報の提供」

NPOおよびボランティアグループの世界では、

ボランティア活動は、すべての人たちが力を発揮できるような仕組みが必要である。多くのグループが連携し、スクラムを組む活動が必要である。

⇒ 「ネット化」、「イベントの充実」

大阪大学の藤田先生が提唱されているプロダクト・エイジングが重要

高齢者を隔離して優遇するのではなく、共生した存在として位置づける考え方である。私たちシニアが活発に活動できる実働年齢は、講座修了後10年ぐらいではないでしょうか。早い時期にボランティア活動(社会貢献)のリーダーとしての動機付けを行うことが必要である。SA講座は、市町村への付け替えは困難といえます。

⇒ 府政と市町村が、両立した形態で運営すべきである。

最近の思いを書き綴りました。平成21年度以降のSA講座継続にむけた活動を展開していきたいと思っております。どうか今後とも絶大なるご支援ご指導を賜わりますようお願いいたします。

第39号の1 (平成20年度-1号)

2008年8月発行

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会
連絡先 〒540-0012

大阪府中央区谷町5-4-13

大阪府谷町福祉センター

06-6337-1085 (理事長宅)

URL <http://sa-renkyo.com>

理事長 佐藤宏一 (吹田 18期国際)

渉外委員長就任にあたって

副理事長 立石修一（はびきの 18期地活）

此の度、佐藤理事長から誠意と熱意を持って渉外委員長への強い要請を頂き、浅学非才で力量不足の私が、人生経験豊かで素晴らしい活動を実践されている先輩理事の方々の中で、果たしてお役に立てるか否か不安で自信が無いままに就任を致しました。

然し現在では、微力ながらS A連協の活性化のために精一杯ご協力と尽力をさせて頂きたいと強く決意致しております。

これまでの地域福祉ボランティア活動で培って来た「知識」を「知恵」に変え、その「知恵」を更に「行動」に活かしてお役に立ちたいと願っております

S A連協役員の心構えとしては、ミッション（使命）、パッション（情熱）、そしてビジョン（未来像）の3つを理念として臨みたいと思っております。

S A連協は、地域に於いて「まちづくり」や「人づくり」（仲間づくり）のボランティア活動を行っている地域S A同志が互いに研鑽し、交流するネットワークづくりの場であると考えております。

渉外委員長としては、理事長と渉外担当委員の方々と共に、大阪府並びにファイ

財団や大阪シニアネットなど関連する外部組織との問題解決を図ります。

更にS A連協として、S A養成講座受講生やアクティブシニアのために何が出来るか、何をすべきかを認識し、それに対し行政からはどの様な支援を得られるかを情報入手します。

その上で行政とS A連協や他のアクティブシニアグループとが「協働」して、新たなS A養成講座やアクティブシニア講座の実施運営を推進し、そこへS A連協渉外担当委員としても積極的に参画して参りたいと願っております。

これからは「S A連協」がコアとなり「NPO・S Aネット大阪」、「高齢者大学同窓会連絡協議会」、「NPOふれあいサポート」の4者を中心として、アクティブシニアグループのネットワークづくりに渉外担当委員としても強く関わって行きたいと思っております。

最後になりましたが新しい広報委員会・広報誌部会の皆様のご尽力により、素晴らしい「シルバー通信」が発刊出来ましたことを感謝致します。

広報委員長就任にあたって

副理事長 和佐 義顕（いけだ 19期都市）

この度、このような大役を、当惑の中、お引き受けしましたが、先輩諸氏、皆様のご指導を受けながら、一年を頑張りたいと思っておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

昨今、組織活動において、広報の果たす役割の重要性が、問われています。個々、それぞれの活動を見える状態で、S Aの内外に発信して、認識をしてもらう。ところが、なかなか効果の表現が難しい。個人レベルの活動を、S A全体の大きな活動とし

て捉え、訴えていく。その方法に広報誌、HPがありますが、修了生一人ひとりが、広報宣伝マン（or ウーマン）として、周囲の人々にそれとなく、さりげなく、S A活動を感じてもらえるにはどんな事が考えられるのでしょうか？ 偉ぶらない広報のあり方を、皆さんと共に考えていきたいと思っております。各地区S Aにも通じる問題でもあります。

メンバー五人の広報委員会（=五人組）に皆様の建設的なご意見をお寄せ下さい。

企画委員長再任にあたって

すでに御承知の通り、平成19年度より従来の企画委員会の内容を改め、SA養成講座受講生の活動受け皿グループ育成に努力して参りまして、すでに2グループが誕生し種々の活動効果も上げて頂き、一応の目的を達成しました。

本年度は都市環境グループの拡大及び産業支援講座修講者の活動基盤の整備。最後に会則の改訂課題に取り組みたいと考えて居ます。ただ19年度及び過日の府、市首長選挙の結果及び行政当局の財政難、行政改革の嵐が、我々の活動環境にも影響をもたらし始めており、シルバーアドバイザー養成講座の存続も検討課題に入る現状の下、当初考へていた改訂では対応出来ないことも予想されます。従ってこの問題につきましては、今後の事態の推移をよく見極めて発議したいと考えております。

幸いにして本年度の各委員は昨年度構成員に勝るとも劣らぬ、多岐にわたる見識豊富な方々の参加を得ましたことをよろ

上島三郎（大阪市 15期地活）
こんで居ます。今後、時流に合った適確な提議を出させて頂くよう努力致しますので、皆々様のご指導とご協力を特にお願い申し上げます。

今日の事態こそ、「真のボランティア活動」の原点に立って一致団結して行動し真価を発揮する事が求められていると考えます。

会員の皆々様の益々のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。



轉るオオルリ（撮影:大阪市 西岡稔）

地区 SA だより

SA 茨木

「興味関心型選択講座」に参加して

岡本 幸雄（14期世代）

茨木市立東中学校では、授業の一環として「興味関心型選択講座」を3年生が前期・後期、2年生が後期のみ、1時間の授業を各11～12回行っています。

この中には、囲碁、茶道、詩吟、中国語やボーリングなどありますが、昨年度より新たにマジックも加えて頂きました。

各期10名の生徒対象にマジックサークルのメンバー6名が得意ネタを分担し教えていますが、意外に難しいテーマだと実感しています。

まず、テレビの影響が生徒のマジックに対する知識が豊富な中で、予算が1人1,500円

で賄うことでネタが限定されていること、さらに感受性の高い年頃なのかノリが悪いなどで、素直に驚いてくれる小学生や老人相手と違い、理解度は早いとその反面別の苦勞をしています。それでも、メンバー一同で試行錯誤しつつ、楽しみながら取り組んでいます。



大阪市 S A

新入会員歓迎 大阪湾クルーズ

石川 和男(19期地域)
昨年新入会員歓迎会に、大阪市広報船『夢咲』に乗船して大阪湾クルーズを実行したところ大好評でしたので、今年も実施いたしました。



5月23日(金)10時30分天保山岸壁を出港し、最初に目にするのは「舞洲」で、この島はオーストリア人アーティストのデザインで最新の公害防止施設が装備された環境事務局舞洲工場を遠望しつつ、「此花大橋」、「常吉大橋」、又非常時には航路を開く為に旋回する「夢舞大島」、を航行しました。舞洲にはその他「陶芸館」「舞洲スポーツランド」があり、大阪オリンピック開催時には、会場の一つに予定されていました。

次に右側には浚渫埋め立て中の「夢洲」を通過し、「南港大橋」、「港大橋」を通過し、「咲洲」を一周して「ATC」「WTC」「コスモタワー」「インテックス」や「ホテル」「住居区」が立ち並ぶ所謂「南港」の「ATC」岸壁に着岸、約1時間大阪市の海の玄関口の大阪港の現状と風景を皆さんに楽しんでいただきました。

その後、カロリーー40%~10%オフの低カロリーバイキングの店「悦」で、昼食を楽しみました。この店は食生活を見直すという視点から80種類の低カロリーメニューを用意し自分の好きな料理を楽しめるシステムの店で、例えば砂糖は使用せず、又ご飯には蒟蒻を混ぜ込んで炊き上げて(メタボに優しい配慮)いました。皆さん、思いつき切り食べられると好評でした。

晴天にも恵まれ、お腹を満たせた後、

お開きとしました。

いよいよ"地域社会人

前田 正勝(20期福祉IT)
S A養成コースを修了し、いよいよ“地域社会人”の1年生となった。

昨年、会社生活からの切り替えを迎えたときに思ったのが、「今までとは180度違うことをしてみたい」。今までに蓄えた「IT」、そして、お付き合いの「ネットワーク」、持ち前の「好奇心」、継続するための「遊び心」、この4つが永年培ってきた“自分らしさ”ではないかと思い、新しい場、新しい出会いでこれを生かせたら、と思った。

S A連協での先輩方の活躍に接し、期待していた場に一步近づけたのではと感じている。幸いにして、養成コースの地域の班活動で一緒だったメンバーが、辻 昌久さんのリーダーシップよろしく、そろってS A連協に入会したので心強い。これからがむしゃらに取り組み、4つのことを生かせれば、核心に近づけるのでは、と思う。最近知った言葉、「大きく、ゆっくり遠くを見る」でやっていきたい。

堺 S A

堺 SA 通信の創刊

堀 富治(18期福祉IT)
地域福祉活動を推進するボランティアを育成するために大阪府地域福祉推進財団(ファイン財団)が実施する[S A講座]修了者の内、一定の実践活動を行った者に対して、大阪府知事より付与されたS A(シルバーアドバイザー)の称号を持つ者の集まりで、堺S A連絡協議会を設立し、本年で20周年になりました。

平成17年~19年には堺市南区泉ヶ丘駅前にある「ビッグアイ」に南部講座の開講で多く同窓の友を誕生させ、我々堺SAを活性化してくれました。しかし、[S A講座]の大阪市への移転で、その勢いを失う恐れさえ感じさせられます。

こんな状況から、組織の活性化を図るには! 活動の広報を! 情報の共有を! との思いを込めて、堺S A通信の創刊をしまし

た。

広報活動に活発な地区から見れば、いまさらなんだと思われるでしょうが、堺 SA の特殊な実情が込められたもので、南部講座の同窓の友をはじめ、多くの方のご支援ご指導をお待ちしております。

S A 松原会

創立 10 周年にあたって

坂東 翠（9期福祉）

S A 養成講座を、修了して 10 年が経過しました。振り返って見ればアツという間でした。講座の基本理念の、地域に根差した活動を目指し、ボランティアグループを立ち上げました。活動の柱は二つ。一つは、高齢者の健康福祉を一環とする歌体操、もう一つは伝承おもちゃ作りを通じた子供たちとの世代間交流です。

S A のいきいき歌体操グループとして、高齢者の寝たきりに「ならない」「させない」「つぐらない」をスローガンとして、弱者も健常者も互いに助け合って生きる共生の喜びを目指します。また、行政が進めている介護の一環としても、私たちの歌体操が少しでも皆さま方のお役に立つことが出来れば幸いと取り組んできました。

子育て、子育て支援する小学校区を起点とした子供の安心安全の居場所作りとして、一緒におもちゃ作りを通じて、世代間交流を図っています。



歌体操の最初の活動先は、

平成 9 年 3 月に松原市社会福祉協議会サービスセンターと介護支援の会ディハウス松原ファミリー。両施設では、現在も歌体操活動の原点として継続させて頂いており、今年 11 年が経過いたしました。

地域高齢者を対象としたのは、平成 9 年 12 月に松原保健所からの要請で、松原市部落開放センターでの活動が第一回目でした。以来、平成 14 年 12 月から、ディサロンひだまりに引き継がれ、街かどディサロンとして現在も月一回年間行事として定着しています。

地域保健課では平成 11 年 4 月から B 型老人センター高見苑、地域老人の集いで活動が最初の出会いでした。以来、各苑での集いが年間 7 回位のペースで、現在も継続されています。

松原市老人クラブ連合会関連では B 型老人センターの松南苑で平成 16 年 5 月が第 1 回の活動として、また高見苑で平成 17 年 4 月から毎月の年間行事として定例化されました。



世代間交流おもちゃ作りでは、

平成 11 年 3 月に恵我南小学校で三年生社会科公開授業として、手作り竹とんぼを作ったのが最初でした。以来、土曜子供体験活動推進委員会が結成され、月 1 回の定例化が定着し現在に至っております。

第七中学校区国際文化フェスタは、平成 10 年、第 4 回より参加。

第五中学校区いきいき環境フェスタは平成 13 年第 6 回より参加。

第四中学校区いきいき交流フェスタは平成 17 年第 5 回より参加。

平成 15 年 2 月に松原市社会福祉協議会 35 周年記念福祉大会で、ボランティアグループ 5 年の感謝状を頂き、平成 20 年 5 月には 10 年の感謝状を頂きました。

このような活動を通じて私たちのグループの生き甲斐づくり生涯学習の励みにもなります。時代のニーズの高まりと相俟って、ボランティアの基は継続にありと考え、これからも地域に根差した活動に取り組んで参ります。

S A はびきの

はびきの祭 に出展参加して

野村匡則（17期地活）

平成20年5月5日(9.00~16.00)、第33回白鳥伝説「はびきの祭」が峰塚公園・LICはびきの館で開催されました。



当日、メインステージでは各種演技、演武、ショー、踊り、コンテストなど、公園広場では大道芸、ミニSL、ふあふあエアーマット、四輪バギーなどの催し物が行われました。一方、LICはびきの館では音楽祭、美術工作創作室などが開かれていました。

私たちのパビリオンでは89ブースのうち一つを借り切り、市民にSA周知のため、SAはびきの旗を周囲に掲げて、SAの由来、活動内容をポスター及びチラシ配布によりPRに極力努めました。

受付では親子連れの方にコマづくり、鯉のぼり、ストロートンボ、頭の体操など教示しながら共に楽しみました。また、ボランティアされている人がおもちゃに興味を持たれ、参考にしたいと持ち帰る方もありました。用意した手作りおもちゃは好評で午前中にはほぼ出尽くしましたので、あるだけの材料を調達して制作に追われました。

今回は受付での混雑緩和のため、予めおもちゃを制作したものを説明しながら提供しましたが、低学年ぐらいの子は初めから自分で作りたいとの申し出が3~4人いました。

次回はスペースの問題もありますが、制作部門と提供部門に分けた対応も一工夫かなあと感じた次第です。

来所者：約200人、参加者：12人

S A 藤井寺

3~4月活動実績

松田 邦雄（19期健増）

- 1) SA藤井寺 文化講座・教室実施
 - ・会場：藤井寺市福社会館
 - ・講師：SA 藤井寺会員
 - ・資料代：200~300円

- 2) SA藤井寺講座
介護予防ストレッチ指導者養成講座。
 - ・3月8日、15日、22日 3日コース
 - ・担当中村 16期
 - ・参加者：18歳~50歳。



おもちゃ作り教室

- ・3月28日、4月4日 2日コース
- ・担当千種 19期・唐木 18期
- ・参加者：春休みの子供たち。

パソコン体験教室(パソコン初めての方)

- ・3月24日、3月31日 2日コース
- ・担当大川 18期
- ・参加者：60歳前後の男女

お手玉教室(作成・遊び方指導)

- ・3月26日、4月2日 2日コース
- ・担当吉留 15期
- ・参加者：小学生以上

ディスコン教室

- ・3月23日、4月6日 2日コース
- ・担当松田 19期
- ・参加者：小学高学年以上~高齢

S A 養成講座担当講師の方からのメッセージ

世代間交流コース

皆さん、ご無沙汰しています。お元気で活動のことと思います。

さて、シルバーアドバイザー養成講座も21期となり、ふりかえりますと、私が世代間交流専攻にお世話になったのが、平成元年の後期からですからずいぶんと永くなります。

当初、世代間交流の村に何を据えようかと悩んだ末に、人の最も大切な部分である「遊び」を核に交流を考えようとの思いから、玩具作りと遊びが生まれた次第です。はじめは玩具なんて大のおとなに受け入れてもらえるか不安ではありましたが、遊びという部分では年齢にはまったく関係ありませんでした。

それどころか皆さんの遊び心が誘発されたのか、昔からの伝承玩具からいろんな楽しい玩具が生み出されてきました。例えば、あのブンブンゴマだけでもたいへんな数になるのではないのでしょうか。

先日も地下鉄の車内でストロートンボを手にする子どもに出会いました、そのトンボを見るなりこれはアノグループのものだ

松井 鴻

とわかりました。同じトンボでもそれぞれ一工夫された特徴があるからです。

私にとってこうした光景は嬉しいかぎりです。修了生の皆さんが、それぞれの地域で活動拠点をもたれ、大阪府下のいたるところで玩具を手にする子どもを、見かけるようになりました。

これはやはり20年という地道な活動のたまものと思うのと同時に、世代間交流に少しは貢献できたのではと思います。

最後にご健康と益々のご活躍を、もっともっと「おもしろい」ことをしましょう。



健康増進専攻コース

「これからの健康づくり」

健康増進コースでは「介護予防～これからの健康づくり」をテーマとして講座を進めています。高齢化が急激に進む日本においては、一人ひとりのQOL（生活の質）を高く維持することがいきいきとした社会を創るために重要な課題であり、健康に不安なく安心して暮らせることは子供たちから高齢者まで世代を越えて私たちの願いでもあります。

本コースでは介護保険制度での介護予防の枠組みのみに留まらず、より積極的に健康づくりを捉えるために、加齢に伴う身体機能の低下を防ぎ、健康・体力づくりについての知識や技

仲原 成岳

術を学ぶと共に、レクレーションやグループワーク等により、自分自身や家庭、地域での取り組みについて考えていくことを目標としています。

「介護予防」という言葉は様々な捉まえ方や意味合いが含まれています。「介護」という言葉から「介護なんてまだまだ先のこと・・・」と考えておられる方が多いのも現状です。

しかし、究極の介護予防は、「元気な子どもたちをたくさん育てること」と言われる考え方もあり、皆さんの背中を見て育ったお子さん、お孫さんの世代にとっても、共に考える必要の

ある課題でもあります。

「介護」状態になってからではなく、自分自身の人生を楽しむために主体的に健康づくりに取り組むことが大切です。第一のステップは自分自身が健康づくりの実験者として、いきいきと地域で活動されること、そして第二、第三のステップとして、ご家族、隣人、地域の社会へと健康増進の取り組みの輪が広がっていくことが期待されています。

本年度は約 60 名の方が受講されています。地域の様々な機会の中での皆様のご活躍を、心

よりお祈り致しております。



わたしの一言

「大きな船」

向上心豊かな「SA」の皆さま、組織の壁を感じ悩んでいませんか。どうぞ、大きな船に乗っている安心感を感じて下さい。運営する立場の人達は、人知れず身体を張り苦勞をされています。その気持ちを和らげ、次なる活力へ繋げてあげられるのは「協力」というボランティアです。

外へのボランティアを名乗るだけでなく仲間へのボランティアも心がけて下さい。個人（行動・体力・器量）の力には限界があります。仲間がいる、仲間の友人を知る、交友関係は広がり、新たなグループに参加する機会にも出会います。

「石の上にも3年」どの道も経験することで自分なりの楽しみ方が見つかるのではと感じています。「SA」という名の信頼、手応えがあるからこそ頑張っただけで裏方をされています。心ある内外への仲間づくりこそボランティアだ

柳川 保子（SA茨木 17期地活）

と思います。

3年間、役員会をお騒がせいたしました。ありがとうございました。

うば桜 容易に散らぬ 底力
じじ様の 枯れぬ心は 世直しに



キビタキの番水浴び（撮影:大阪市 西岡稔）

広報委員会広報誌部会

【編集後記】

巨艦SA連協の広報誌を担当するにあたり、迷いや戸惑いの波を乗り越え、第1号誌発刊の出港を果たせた事は無上の喜びであり、支えて頂いた皆様に深く感謝しております。安全航海を念頭に第2号誌の港に着岸すべく、

より一層の皆様のご協力をお願いする次第です。

広報誌部会長 服部 早樹子
（大阪市 19期福祉IT）